



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

## 東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、  
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第6号

2026年6月18日

編集 緒方 なな  
東浦町教育委員会  
SPコーディネーター

### 緒川小学校 加藤SP

6月10日、緒川小学校の加藤SPの活動の様子を見に行くと、1年生の体育（鉄棒）の支援に入ってくれていました。こうした実技教科では、SPさんは大活躍です。体育の授業では、活動の時間を確保することを先生方は意識されていると聞きます。子どもたちの安全と、それぞれの活動時間を確保するのに大人の目と手が増えることは大変助かります。体育以外にも、家庭科のミシンや調理実習、図工や美術、音楽にもよくSPさんは支援に入っています。

「1年生によく入れていただくので、子どもたちからも覚えてもらえて、少しずつ慣れてきました。『ももか先生～』と笑顔で来てくれる子どもたちに、毎週癒されています。」と優しい笑顔で話してくれました。

鉄棒の授業ということで、最後は前回りができるように、先生は段階的に“技”としていくつかポイントを指導されていました。（例えば、親指が下になるようにしっかり握る、お腹を離さない、背筋を伸ばす、おへそを見て体を丸めるなどでしょうか。）それをしっかり見ていた加藤SP。「親指はどうするんだっけ？」などと声をかけてくれていました。「できてるよ！」「できるよ。大丈夫だよ。」などの温かい励ましの言葉もたくさんかけてくれていました。加藤SPの言葉に、子どもたちも自信をもって何度もチャレンジしていました。

大学の講義の一環として、子どもたちの「学習性無力感」について研究を進めているそうです。「緒川小の子たちはみんな元気で生き生きしていて、ビックリしました。」「高学年の子たちの様子も見たいです。」とのことだったので、来週は一緒に高学年の授業を見に行く約束をしました。メモもたくさん取りながら活動する加藤SP。実際の子どもたちや先生方を現場でじっくり見て、感じて、研究にも生かしていただけたらと思います。

